

# とちぎ義博 議会レポート

第34号 2006年11月4日 臨時号

発行者：福岡市議会議員 栃木義博

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-3-13-305

TEL.845-7669 FAX.845-8511

E-mail:tochigi@bronze.ocn.ne.jp

ホームページをリニューアルしました

<http://www11.ocn.ne.jp/~tochigi/>



**隠れ借金3,529億円が新たに!**  
**借金総額3兆219億円。**  
**とちぎ義博の追及で判明!**

決算特別委員会  
総会質疑

とちぎ義博は、10月5日の平成17年度決算特別委員会総会質疑で、昔ながらの開発行政に先祖返りした山崎広太郎市長を厳しく追及。膨らみつづける福岡市の隠れ借金の実態を浮き彫りにしました。

福岡市はこれまで、市民の借金にあたる市債残高を一般会計、特別会計、企業会計などを合わせて、2兆6,690億円としていましたが、このほかにも福岡市と密接不可分な関係にある福岡市土地開発公社、福岡市住宅供給公社、福岡北九州高速道路公社の三公社について、総額2,825億円という巨額の債務保証や損失補償の存在が明るみにでました。さらに、福岡市が50%以上を出資し、経営権を支配している(財)福岡市コンベンションセンターや博多港開発(株)などの第三セクターでも、704億円の多額な負債を抱えており、市民に実

福岡市の隠れ借金(平成17年度)



態が知られていない、いわゆる隠れ借金が3,529億円にもものぼることが、とちぎ義博の質問で判明しました。その結果、福岡市の借金はさらに膨らみ、ゆうに3兆円を上回ることになります。

山崎市長は、とちぎ義博の質問に対して、明らかとなった隠れ借金の存在を打ち消すのに躍起でしたが、借金の実態があばかれたことで、はからずも市長のすすめる須崎ふ頭や新空港などがそもそも無理な開発であることをあらためて浮かび上がらせる結果となってしまいました。

## ≡開発から暮らし重視へ≡ 福岡市政の大転換を!

吉田宏・新市長誕生に全力投球します



わたしたちは、福岡市長選挙(11月5日告示、19日投票)について、7月17日に独自候補の擁立を決め、8月24日に元西日本新聞編集委員の吉田宏さん(50歳)を推薦しました。

山崎広太郎市長のもとで「先祖返りした開発行政」から、「子どもの未来に投資する暮らし重視の成熟行政」に福岡市政を大転換させるためには、若さとスピードを兼ね備えた、新しい改革リーダーの登場が待ち望まれています。

とちぎ義博は、「吉田宏・新市長」の誕生に全力投球します。今度は市長をかえようではありませんか。

福岡市議会議員 栃木 義博

# 露呈した「開発ありき」の山崎市長。

# 待望される「暮らし重視」の改革派市長。

# 若さとスピードの吉田宏(50歳)さんを!

須崎埠頭開発の是非など大規模公共事業のあり方については、11月19日の福岡市長選挙での争点のひとつです。民主党が元西日本新聞編集委員の吉田宏さん(50歳)を福岡市長候補として推薦することになった契機が、今年6月の福岡市議会での、とちぎ義博の代表質疑に対する山崎広太郎市長の答弁そのものがありました。その要旨をご報告します。

## ずさんだった五輪招致の開発計画!

福岡市は、2016年の五輪招致に名乗りをあげ、今年8月末の国内招致都市の決定にむけて、東京都と一騎打ちを演じていましたが、山崎市長は招致合戦を有利に運ぶために競技会場や選手村、パビリオン、ホテルなどの施設整備について、須崎埠頭地区を中心に再開発する計画(事業費約4,700億円)を打ち出したのです。ところが、住宅・商業施設の分譲・リースなど需要の根拠と同様に土地処分・住宅分譲を進めるアイランドシティ(人工島)整備事業(約4,600億円)への影響など採算性や地権者合意などについて納得いく説明が得られず、須崎埠頭の

再開発事業が極めて無理な計画であったことが、わたしの質問で露呈してしまいました。

## 抜本見直し求めた須崎開発!

わたしは、福岡市が仮に国内招致都市に決定した場合でも、採算性に乏しく実現性の低い須崎埠頭の再開発計画を断念して、アイランドシティを中心とする競技会場の配置を再検討することが現実的だと主張しました。例え万が一、須崎埠頭地区を再開発するにしても「新たな市税投入など救済措置を講じない」ことを山崎市長が約束するよう迫りました。むろん、福岡五輪の国内選考に敗れた場合は、須崎埠頭地区の再開発については抜本的な見直しを求めたのです。

## 開発ありきの答弁に批判集中!

山崎市長や市幹部は、わたしの質問に対して、須崎埠頭地区の再開発は「高い需要がある」「アイランドシティを含め全市的な需要はある」と繰り返すだけで、具体的な根拠を示さずに終始。また、事業が採算割れを起こした場合の新たな市費投入など「救済措置をとるのか」という質問に対しても回答を避けました。さらに、福岡五輪が敗れた場合でも、須崎埠頭地区の再開発を進めると公言するなど、山崎市長の「開発ありき」の姿勢を鮮明にしたのでした。

## 待望される若さとスピードの改革市長!

わたしと民主・市民クラブは、「大規模開発のともなう従来型五輪からの脱却」を理念に掲げた五輪招致決議(平成17年9月議会)には賛成しましたが、その理念から遠くかけ離れてしまった須崎埠頭の再開発事業を強引に進めようとする山崎広太郎市長では、市民の暮らしを守れないと判断しました。そして、「開発から暮らし重視へ」市政を転換するために、若さとスピードを兼ね備えた改革リーダー・吉田宏さん(50歳)を全力で応援することを決意したのです。

